

令和 3 年度

1 自己評価及び外部評価結果

事業所名： 認知症対応型共同生活介護施設グループホームぬくもり(さくらユニット)

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0393100128		
法人名	社会福祉法人 健慈会		
事業所名	認知症対応型共同生活介護施設グループホームぬくもり(さくらユニット)		
所在地	〒028-8202 岩手県九戸郡野田村大字玉川第5地割45-22		
自己評価作成日	令和3年7月20日	評価結果市町村受理日	令和3年11月15日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

「家庭的な雰囲気の中であっても安全に過ごし、個々の思いに寄り添い、役割を持った生活への支援。」を目指しています。
また、食事や行事を通じて四季を感じて頂ける機会も提供しています。
宅配弁当サービスといった地域資源を活用しています。

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先 https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/03/index.php?action_kouhyou

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所の基本理念である家庭的な雰囲気づくりや地域や家庭との結びつきを重視する取り組みを、日々の介護を通じて実践することを心掛けている。コロナ禍のために地域との交流活動が大きく制限される中、地域向けの広報誌を各戸配布して、事業所の様子を積極的に知らせているほか、福祉避難所として地域住民の受入れ体制も整えている。また、利用者の人格を尊重するサービスという基本方針のもと、今年は「言葉遣い美化月間」の取り組みを行い、全職員で利用者の尊厳を意識したケアに取り組んでいる。更に、地域貢献事業として子どもの居場所づくりの「フリースペースゆい」の運営も始めており、地域にとって有意義な事業所となっている。

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 いわたの保健福祉支援研究会
所在地	〒020-0871 岩手県盛岡市中ノ橋通2丁目4番16号
訪問調査日	令和3年9月29日

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目		取り組みの成果 ↓該当する項目に○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外に行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

事業所名 : 認知症対応型共同生活介護施設グループホームぬくもり(さくらユニット)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	基本理念はユニット内に掲示している。 2カ月に1回のユニット会議で全員で復唱している。	事業所の開所時からの理念を基本としており、職員への浸透を図るためホールや事務室に掲示するほか、ユニット会議の際には全員で唱和している。また、2ヵ月毎に定める各ユニット目標には理念にある方針を取り入れて設定し、職員への浸透を図っている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	コロナウィルス感染予防のため、地域との交流会等は行っていない。施設広報やぬくもり新聞の配布にとどまっている。	地域の部落会に参加し、地域との連携と交流を大切にしている。コロナ禍のために様々な交流機会を休止しているが、そのような中であっても、ホームの広報を年4回、各戸配布してホームの様子を伝えている。この秋にはホームを会場にして地域の作品展覧会を計画している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議や地域ケア会議を通じて近隣住人や関係各所との情報交換をしている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	開催できない月もあった。 利用状況などの報告をし、近隣住民の情報提供を頂いている。 事業継続計画のための議題も取り上げた。	地域の部落長や民生委員も委員として参加して開催している。コロナ禍のために今年は5月に開催したほかは、資料の送付のみとなっている。会議では、事業所の周知不足について意見が出されるなど、有意義な会議となっており、今後は書面開催とすることも検討している。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	地域ケア会議への参加。他事業所からの情報提供や、事例検討会などを行っている。	普段から役場内にある地域包括支援センターと連携しているほか、コロナ禍のため福祉課からはマスクや消毒薬、抗原キット等が交付されている。村主催で毎月の地域ケア会議にも毎回参加しており、地域の特養ホームや居宅介護支援事業所、消防等の関係機関と緊密に情報交換を図っている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	委員会が中心となり、身体拘束廃止に向けた取り組みを行っている。 施設内研修を通じて知識と技術の向上にむけた啓発の機会がある。	身体拘束廃止に関する指針を作成し、3ヵ月毎に委員会を開催している。防犯のために夜間は玄関に施錠しているほか、家族の了解のもとに利用者1名に転倒防止のセンサーマットを設置している。また、スピーチロック対策として、職員の美しい言葉遣い運動月間を設け、丁寧な言葉遣いを心掛けている。	

令和 3 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : 認知症対応型共同生活介護施設グループホームぬくもり(さくらユニット)

自己	外部	項目	外部評価		
			自己評価 実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	委員会をはじめ全職員が常に意識して虐待防止に向けたケアを行っている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	研修会への参加。資料等はいつでも確認できるようにしている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	管理者が中心となり行っている。不明点などにはいつでも対応し、電話でも相談できることも伝えている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議に家族の参加をして頂いている。その他、家族の来設時や電話の際には近況報告を行い、要望等も確認している。	通院の付添いで来所した際に家族から要望等を伺うようにしており、コロナ禍での利用者の体調や面会の再開時期をよく聞かれている。利用者からは衣服の入れ替えや訪問販売のパンの購入希望などの要望があり、対応している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	ユニット会議などで、個々の職員から意見を聞いている。尚、会議の内容等は事前に伝え、会議に不参加な場合でも意見を募ることができている。	2か月毎にユニット会議を開催し、職員の意見を聞いている。出席できない職員には資料を配布して意見提出を促している。職員からは夜間の尿パットの大小の見直しや肉料理を嫌う利用者には本人が見えづらい餃子料理を提供するなど、工夫した取り組みに繋がっている。	職員のモチベーションの確保や個人的事情の把握等のためには、職員と管理者との個別面談は必要な機会であると思われるため、年度末等に面談機会を確保されるよう期待したい。
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	個々の希望に添えるようシフト作成をしている。また、研修には積極的に参加できるよう対応している。		

事業所名 : 認知症対応型共同生活介護施設グループホームぬくもり(さくらユニット)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	施設内外の研修に参加を促している。 研修には、個々の要望を踏まえて参加している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	コロナウィルス感染予防のため、交流機会が減っている。電話やパソコン等を通じた活動にとどまっている。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	面談や、相談の際は守秘義務を厳守し、意向等の把握をしている。 頂いた情報や要望をケアに還元できるように職員間での情報共有をしている。入所後も傾聴やアセスメントを行っている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族と本人の思いが違う場合などは、個別に別の場所での対応を行っている。柔軟に対応できるように心掛けている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	初回相談の時点で、状態や要望等の聞き取りを行っている。他事業所も含めて考察し、必要時には連携を図る。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	残存能力やその日の体調に合わせ、作業や余暇活動を促している。無理に行うことはせずに、他の人に頼んだり、一緒に行ったりと信頼関係を築いている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	受診は原則家族対応となっており、協力して頂いている。現在のコロナ禍でも疎遠にならないように電話で状態報告や本人と会話の機会を持っている。 施設広報やぬくもり新聞を送付している。		

事業所名 : 認知症対応型共同生活介護施設グループホームぬくもり(さくらユニット)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	コロナウイルス感染予防のため、面会や外出活動を禁止している。施設内での支援が中心になっており、利用者様同士での関係となっている。 窓越し面会を開始し機会の創出につなげたい。	馴染みに関する情報は、主に家族から伺い、カルテに記載して情報を共有している。コロナ禍で馴染みの関係維持に苦労しているが、少人数で利用者の馴染みの海岸沿いや自宅、場合によっては自分の名前が記載された船舶を見に外出している。今後はリモートでの面会を増やすなど、面会再開に向けて検討を進めている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	ユニットにこだわらず利用者様の行き来をしている。 ソファーに座ったり、テレビの前で談笑されたり毎日入れ替わりしながら関わりを持っている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス終了後も家族や関係各所との連絡や相談、情報共有を行っている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の関わりから、気兼ねなく意思表示できる環境、関係ができています。 家族から情報提供も頂き、その場での対応もできている。	大半の利用者が思いや意向を言葉で話すことができしており、家族の話が出される時などは特に注意して意向や希望を聞き出している。また、担当職員のほか、相性の良い職員が聞き出すこともあり、ドライブに出かけた際に自宅を見たいとの要望を叶えたり、マツタケを食べたいとの要望に家族が採ってきたり、利用者の思いを事業所で共有して実現に取り組んでいる。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	相談の際に今までの生活歴等の情報収集を行っている。入所後であっても、日々の会話や行動からも汲み取り情報共有を行っている。また、記録も行っている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	個々の様子を観察し記録をおこなっている。 併せて申し送りと連絡ノートを用いて職員間での情報共有をしている。		

令和 3 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : 認知症対応型共同生活介護施設グループホームぬくもり(さくらユニット)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ユニット会議やカンファレンスを通じて意見交換を行い介護計画を作成している。	介護プランはケアマネが原案を作成し、ユニット内のカンファレンスで検討のうえ決定している。モニタリングは2か月毎に担当職員とケアマネが行い、カンファレンスを経て、6か月毎を基本としてプランの見直しを行っている。利用者の通院同行に来訪した家族から介護計画の同意を得、職員には当該プランを回覧して情報を共有している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個々の記録に体調や言動といった様子を記載。その内容を職員間で共有し介護計画に活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご家族が通院対応できない場合の通院支援を行っている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	コロナウイルス感染防止のため、思うように実施は出来ていない。 資源の活用としては、薬の配達、弁当宅配など。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医への定期的な通院を行っている。家族へ情報提供を行い、また施設からも医療機関への情報提供を行い受診されている。	多くの利用者が入居前からのかかりつけ医を継続して受診しており、主に久慈市内の開業医や精神科に通院している。半数以上の方が家族同伴で通院しており、コロナ禍にあつて貴重な外出機会ともなっている。また、訪問歯科を利用しているほか、看護業務は併設の特養ホームの看護師が支援している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護師が定期的に状態確認をしている。情報共有を行い助言や処置等を行っている。		

令和 3 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : 認知症対応型共同生活介護施設グループホームぬくもり(さくらユニット)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入退院時は家族と医療機関に情報共有を行う。 また、双方と電話や北三陸ネットもを活用し随時連絡を取り合っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	日々の心身の状態から、早い段階で家族への周知を行う。予後予測しながら家族へ報告や情報提供を行っている。 施設で対応が困難場合は、医療機関や他事業所などと協議を通じて対応している。	重度化した場合の対応については、入居時に説明し理解を得ているが、併設の特養ホームに住み替える例もある。看取りの取り組み事例はまだないが、併設の特養での取り組みも参考として研修を重ねている。今後はACP(人生会議)活動も取り入れて、看取りの取組みを進めることとしている。	信頼のおける職員に囲まれて終末期を迎えられる看取りの取り組みは今後の大きなテーマであり、協力医師や訪問看護ステーション等との連携や職員の研修を重ねながら推進されるよう期待したい。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	夜間救急時フローチャートの改定を行った。 定期的に医療用酸素ボンベや心肺蘇生法の研修を行っている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	定期的な避難訓練の実施。消火器具、避難経路の確認を行った。 福祉避難所として機能できるよう地域との関係を築きたい。	村のハザードマップでは水害等の災害想定地域に指定されていないが、年2回の火災避難訓練を実施している。以前は砂利道を避難経路としていたが、今年からは舗装道路に繋がる経路として改善している。村の福祉避難所ともなっており、食糧備蓄や発電機、コンロ簡易トイレ等を備えている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	言葉遣い美化月間を通じ、改めて意識付けができた。結果、馴れ合いになっていた部分に気が付くことができた。	利用者のプライバシー確保のため、特に入浴や排泄介助の際には、周りから判らないように声掛けする等、利用者の羞恥心に配慮している。また、今年7月と8月には「言葉遣い美化月間」として、全職員が丁寧な言葉遣いを心掛ける取り組みを行い、意識化を進めている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者様の自己決定はできている。日々の会話や観察から好みの把握など行っている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	その時の要望や気分に合わせて入浴など対応している。食事時間等も多少の融通を聞かせ、その人のペースに合わせている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	髪型や衣類等、意向を確認している。また、好みや、こだわり、季節感も考慮している。家族への衣類の補充もそのつど依頼している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	個々の好きなもの、嫌いなものを一覧にしている。その日のメニューから嫌いなものがあると代替品を提供している。また献立には、寿司の日、お弁当、誕生日食、要望食があり、食事が楽しみになっている。準備や後片付けも一緒に行っている。	献立作成や調理は職員が行い、利用者は食材の下ごしらえや後片付け、配膳等を手伝っている。敷地内の菜園では野菜を栽培し、利用者が成長を楽しんでいる。また、月1回はお寿司の日として外食を楽しむほか、週1回は村内の宅配弁当を利用したり、誕生日には行事食も提供し楽しまれている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	毎食時に食事摂取量、水分摂取量を記録している。個々の状態に合わせて摂取回数や量を調整している。ご家族様からの差し入れも提供している。		

自己	外部	項目	外部評価	
			自己評価 実践状況	実践状況 次のステップに向けて期待したい内容
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の口腔ケアは状態に合わせて介助を行っている。 村田歯科と連携し定期的に指導や診療を受けている。	
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	個々の状態に合わせた用具の選定をし、トイレでの排泄ができるように支援しています。	利用者毎の排泄チェック表を作成し、トイレ誘導のタイミングを確認している。現在は、全体で布パンツの利用者が3人の他はリハビリパンツとパットで、オムツ利用者はいない。全員トイレを利用している。排泄に失敗した場合には、周りに気付かれないようサッと片づけるなど、特に配慮している。
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎日の排泄確認を行い、自力で排便できるように水分摂取や軽運動を積極的に促している。 通院時にも情報提供を行う。	
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴日は決まっているが、本人の体調や要望で曜日を変更し対応している。 また順番や時間も考慮し介助している。	入浴は週2回を基本としているが、本人が入りたくない場合には翌日にするなどして柔軟に対応している。家族持参のシャンプーや石けんを使用しており、季節のゆず湯や菖蒲湯も楽しんでいる。職員は会話をしながら、身体状況の観察も丁寧に行っている。入浴した際に体調に異変が生じても、医療機関での診察が可能なように、入浴時間を午前10時からと設定している。
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	エアコンを使い温度の調整をしたり、電気も個々の好みに合わせている。 好きな時間で休まれている。	
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	お薬情報はそのつど確認し、変更があった場合は記録し連絡ノート等で共有している。 与薬マニュアルを見直し誤薬といった事故防止に努めている。	

令和 3 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : 認知症対応型共同生活介護施設グループホームぬくもり(さくらユニット)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	個々の状態に合わせてモップ掛けや茶碗拭き、カーテンの開閉といった家事的な役割を持っている。また、レク活動の他にも歌謡ショーの動画鑑賞、散歩、かるた等を楽しんでいる。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。 又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	現在、外出に制限があり外出機会は通院時のみとなっている。屋外には散歩や庭の手入れ等の活動にとどまっている。	コロナ禍で以前のような外出ができない状況にあるが、自宅を見に行きたい等の要望があれば、個別に職員が運転して外出支援している。また、敷地内の菜園の手入れや、すぐ前にある三鉄玉川駅まで散歩したりして、外気浴しながら気分転換を図っている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	パンの訪問販売時は自ら選び購入されている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望時には随時電話を使用している。年末には年賀状を作成、送っている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	食堂のソファーには気の合う者同士で会話が弾んだり、居眠りをされている様子がみられる。季節を感じて頂けるように、テーブルには花を飾りったり、掲示物や手作り作品を展示している。エアコンでの空調や、照明の調整を行っている。	共用のホールには、テーブルとイス、ソファーが備えられ、大型テレビを見ながら利用者が寛いでいる。壁面には職員と一緒に制作した花火や七夕、鯉のぼりなどの季節感ある飾り付けがなされ、心が和むような工夫が見られる。多くの利用者は日中はホールで過ごし、昼食や夕食前にはラジオ体操も行うなど、毎日の生活を楽しんでいる。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	テーブルサイズや配置を工夫している。 個人で新聞を読んだり、複数でテレビや会話を楽しむ事ができている。		

令和 3 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : 認知症対応型共同生活介護施設グループホームぬくもり(さくらユニット)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好み のものを活かして、本人が居心地よく過ご せるような工夫をしている	本人の馴染みな品を持ち込んでもらったり、家族 写真や手作り作品等を飾っている。 ペット等の配置も、本人の状態に合わせ配置をし ている。	居室にはベッドや箆筒、洗面台、エアコンが備付 けられており、利用者はテレビや衣装ケース、家 族写真、鏡等を持ち込んでいる。室内には作成し た折り紙や塗り絵も飾られ、居心地良い空間と なっている。清掃は職員が行っているが、利用者 の中には清掃やリネン交換を手伝う方もいる。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づ くり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わ かること」を活かして、安全かつできるだけ 自立した生活が送れるように工夫している	安全に生活を送れるように危険物等の排除や、 車椅子等の整備を行っている。 常に見守りができる環境の中で生活を送って頂 けるように支援している。		